昭和12年5月1日（土）

雨時々降る、夕方頃より歇む。割合温暖なり。唐津より持越せし白澤紙截断。道子、後藤盛光氏来福に付き、迎えに行き、之を送りて山本先生に到る。四時頃飯る。七時秀夫来る。阿部写真館より写真持参、大欣（よろこ）びて余を招く。三十分位にして飯る。選挙開票放送あり。九時半寢床。

昭和12年5月2日（日）

朝の間多少の雨、午前十時頃より漸次霽れ。久子友達を駅に迎えに行く、十一時十五分博多駅着の由。午後二時を過ぐるも飯宅せず。此の間道子は山本先生かかり行き、先生を誘ひ来る筈、先生辞して不来。次いで午後二時頃、澄子と新柳町市場に行き、二時半頃飯宅。余は久子を俟たず、澄子より拾円借用して参拾円として持参。晴天の為、道路乾燥早し、下駄にて差支えなし。三時過ぎ出発。明朝九時再来を宣告せらる。余は本日にて完了のことと思ひしに、今日は型を取りて繋ぎ合わせ、愈々完全に構成の域に達するが如し。四時半飯る。久子は五時二十分頃飯る。友達とデパート西公園を散歩し、友達は一旦親戚に、久子は家に飯れる由。夜皆風呂に行きたり。衆議院議員当選者名発表。僅少の差ながら第一党民政、社会大衆党は驚異的發展を見せ三十七名を、前回の倍数を獲得せり。十時寢床。

昭和12年5月3日（月）

此日よりドンタク。橋詰歯科医は松囃子当日は家に居らぬを普通とす。朝の間丈け治療に従事すと云ふ。八時半出発、九時到着。櫛田神社横にて医師と逢ふ。何か用弁

に出掛けたるらし。吾等少時上がりて待つ間もなく販る。久子に治療し、次いで余に及ぶ。此の日にて金冠技術終了。我物らしき感じなし。玉屋デパートに至り公設市場あり。久子色々求めて販る。余は新柳町より徒歩、箕島局に至り、年金受取貯金して販宅。澄子萩の餅を作り、二時頃出来上がる。余、餡（あん）製造に加勢す。三時半、一燈園桑原氏に持参す。誰も居らず、ノートして重筥を其の儘差措き、帳面にも誌して販る。往復徒歩。夕食に萩の餅を食し、子供等皆、松囃子を見に行き十時頃販る。夜は可なり冷え、毛布一枚長持ちより取出し、布団の代わりに毛布二枚掛くこととせり。十時半寝床。

昭和12年5月4日（火）

昨日同様快晴。松屋にて書籍割引売捌きに付き、朝松屋に行く。中尾氏へ返信発送す。途中下駄の鼻緒切れ閉口せり。野村生命を博多駅近くに訪ね、道子の分、払込方の変更を尋ぬ。自分の支店にて受領し呉るる由に付き、辞して下駄屋に至り鼻緒を据えて貰ふ。二銭とらる。0時半販宅。今度は子供等皆出掛く。余野村生命に至る途中、唐津局員二名に逢ふ。昨日も数名来たりし由。汽車賃半額の為、今日も相当多数見える由。「親心子心」一部1,50を45銭にて求む。振替四十五円到着す。払渡し局、福岡に指定しあり。昨萩の餅、山本先生へ道子により、秀夫へ久子により、隣家へ夫々配達さる。隣家の主婦は病気にて、竹下の病院に昨未明入院の由なり。四時頃、一燈園桑原氏来訪。先日の重筥持参。夫れに西公園を毎朝托鉢して得られたる盃百余、茶碗五十、其の他にて処分に困り居りしと云ふ杯拾箇、持参あり。夕食うどん二杯馳走、大森先生かかり行き、ドンタクの留守番仰せ付

かるとのことなり。六時夕餐を済まし、夜は子供等風呂に行きたり。余は九時半寢床。

昭和12年5月5日（水）

晴天、東南の風強し。十時、後藤守光氏暇乞いに見ゆ。少時咄して十一時過ぎ飯らる。此日逓信協会より寄贈の金四拾五円を受取るべく、本局に行く。局員に挨拶するは先方にても迷惑。なるべく成るべく、自分は臨まぬふり宜しけれと思ひて、久子の齒科医より飯るを俟ちて、一緒に出掛け少時俟つ。野口さん嬢さん、今女專に入学中なるが、貯金払戻しに来たり居るに逢ふと云ふ。二十余分待合わせ久子来る。余は野村生命に電車にて行き、28、50銭支払い徒歩。松屋にて咄堂素人禪75、是清翁遺訓43にて求め、六時少し前飯宅。既に夕食を済ましあり。水浴後夕餉を済まし、午後九時半寢床。

昭和12年5月6日（木）

動物観光祭、此日多少曇り。午前十時、久子齒科医に行く。十一時近くまで階下に新聞を見、折柄配達を受けたる大丸の型録を見、唐津局より廻送の従六位が勲記よりも遅く辞令ありしを訝かしみつつ、漸く二階に納まりたる時、逓信局より出張員来たりたるを以て、思ひ当たることあり。二階に招じ近況を話す。中津駅前局長死亡の候補者として、余の意向を訊し来る。既に此の事あるを知りたるを以て、盡力方を依託す。午後0時20分ビールを求め、昼食を準備せしむ。時間の関係上、退出せらる。久子ビール等求め来る。即ち家内中にて飲む。駅前局は二人八分（27、60）77、280、雑費（5、20）1456。計91、84銭、保険費五円、局長手当10、切手34、

93、印紙3、02、小計47、95、支出家賃35、会費3、小計38円、差引36、75なり。局長代理は妻女31円、他に二名を使役する如し。夜夕刊を見て居る時、秀夫来る。十時過ぎまで咄し販る。今夕食、鮭（すし）を作る。隣家の槇氏にも送る。十一時寝床。今日熊本は招魂祭、昨常の段賑わいを極めたるらし。勿論逡信局は午後より半休。夫れを出張被命、一直線に余の許に到りたるらし。それより中津に向かわる。色々注意もあり、決定まで沈黙を守ることとせり。余の不思議とする処は、同駅前局長息子より局長死去の通知ありし際、さては奇蹟的に此の後任は余の許に顕はるるなるべしと、恰も神慮に出づる如き事実を認識し、之が速進を期すべく庶務課長に手紙を出し、認識を新たにして貰ふ積もりなりしなり。尤も是れの成否は運命として、上司に泣言を駢（なら）べて訴ふる如き挙措は、余の絶対に執らざる所として、諒解を得置きしものなり。（此の日外出せず。子供夜風呂に行く。余も理髪の序でに入浴せんものと、中尾氏宛郵便投函し、理髪屋に至れるに、満員に付き販宅。八時四十分寝床。）

昭和12年5月7日（金）

曇天。動物祭は此日にて終幕。両日とも行かず。此日中尾氏よりの書面、容易ならぬ真剣さが窺われ畏（かしこ）しくなれり。道子名古屋博を見に行く。此の序でに大阪を見物せしめん。夫れには中尾氏に案内を請うを最上の工作と認め、同氏に手紙書き、夜投函す。五時頃より、多少碧空を見る。

昭和12年5月8日（土）

昨夜道子等入浴に外出の後、桑原氏来邸。誰も居らぬ為、座敷の縁側の藤卓子の上に置き手紙してあり。本朝之を見るに、九日水鏡八幡宮に托鉢、午前六時から七時半。更に夜七時より、一燈園に於いて座談会の催しありとあり。此日晴天なるも、風強く冷氣あり。朝十時、驟雨後霽れ。午後より概ね霽れ。但し風、例によりて強し。道子澄子一時頃外出。三時頃久子眠る。密に頭と足と紐を繋ぎ置けり。四時近く目覚む。道子等、四時半頃飯る。夜、先日来たりし本田さんと云ふ久子の友達来たり。兩人デパートに往き、九時頃飯る。余昼の間理髪35。十時寢床。

昭和12年5月9日（日）

快晴、朝冷氣強し。六時に十五分前出発。新柳町より電車にて、県庁前の水鏡八幡社に至る。既に七八名の托鉢者あり。余も相伍して働き、七時神前に額（ぬか）づき心経を念誦して飯る。七時二十五分。三十分、朝食本田さん二階にて久子と済ます。十一時過ぎ佐藤君夫妻来る。午餐に鮭をとりて餐す。一時、余途中まで送りて別る。此朝久子本田さんと出掛く。次いで道子澄子、買物に新柳町に行き飯宅。間もなく佐藤氏来たりしなり。静江氏より三日認めし手紙、六日の引受となりて、本日接手。午後四時久子、本田さん連れ飯り来る。夕飯を餐し、六時三十八分の上り汽車にて出発。久子送りて行く。余七時に十分前、引張りを着用の儘、練堀町一燈園に行く。割合早かりし。定時を過ぐる五分、油山、僧侶あり。松居さん、及び飯塚より来たり居ると云ふ兎島氏、これは朝の托鉢にも見え、松居さんと懇意にし居るか、余の噂をなし居れりと云ふ話など出でたり。博多駅前の人、山崎

氏及び安藤氏等二十名見ゆ。会費拾錢徴せらる。坊さんの白隠禪師、和讃の解釈あり流暢ならず。最後に茶の饗応あり。安藤氏博学を衒ひたき様子見ゆ。十時二十分閉会。十一時寢床。

昭和12年5月10日（月）

快晴。冷氣、日中は気温上昇。久子道子澄子外出。久子は医かかり行き、二時間余にて販り、他は三時間余を費やし販る。夕飯四時半に済まし、余は新柳町市場に齒磨粉と人蒜（にんにく）を求め来る。20と9錢費やす。五時四十分販る。道子独り留守居、余の販るや道子も匆皇出掛く。引張り脱げば、澄子即ち片付く。余の引張り姿を好まず、色々着用を遮りつつありしもの。子供等は活動に出掛けしものなり。本日道子の名古屋行を、十七日早朝出発に決定す。着物が気候の変遷季にて、夏物は下旬より着用につき、十七日とせしものとす。

昭和12年5月11日（火）

曇天。中尾氏より通信あり。写真及び詠草あり、閑居五月雨、題とす。此日の手紙は道子来を歓迎するもの。及び金光本部に来月十六日出発の旨、及び販郷することは余り間隔短く、今少し後にて機会あらんとて、中止せし由なり。唐日切抜きを、唐津西の門、宮崎照雄氏より送られしもの其の儘、余に送付あり。今回余にも詠稿提出を懇願（しょうよう）し来らる。差当たり返信認め発送せり。此の日十一時、小倉、梶沼喜六氏来宅。道徳科学、広池千九郎氏創設のもの、今回講演会九大仏教青年会館に於いて開催につき、会員として参加を希望し来たりしものとす。恰度正午に販らんとす此時、鮫到着。再び二階

に招じ午餐を供して一時帰らる。夜、余手紙出し入浴す。

昭和12年5月12日（水）

午前中曇り、降雨模様。雨脚低く垂れる。一時松居さんを訪ふ積もりにて、中尾氏に詠草発送の為出掛け、春吉石橋方、大内田氏を訪ふて慰問す。箕島橋に来たりし頃は、蒸さるる熱さに流汗淋漓。少時川風に面を颯（なぶ）らせ、更に八幡小学前より松居氏を訪ふ。三十分弱搜索、漸く得たり。暫時咄して三時半飯る。冷水摩擦、夕食五時うどん。道子微恙（びよう）、朝来絶食。午後晴れ、漸く熱し。

中尾氏宛和歌左の如し。

独り居の 柴の戸たたく 雨だれの
音のみさえて さみだれの降る
世のちりに 染まぬも阿はれ さみだれの
降る夜はいとし ものう記ものを

他に二首あり。

なにはづの いとし記いをも おもひわび
心もうつに なりませりつつ
文見るも 心はいつか うつせみの
妹をしたひて しのびねになく

新聞にて見しは福岡県第一区三等局長会、此日公会堂にて開催。森監督、為替庶務両課長、林、大田黒、入江、福田各係長、佐々木福岡大野電話両局長、会員百六十三名臨席。九時から五時。

昭和12年5月13日（木）

朝来曇り、九時頃より降雨。道子具合悪きらし。懐爐を

抱き居る。多少気温下降。午後も多少降雨す。久子医
かかり行く。道子終日床に就く。余も昨夜来、輾転反側。
昼間睡し。夜秀夫、子供小なるを連れ来る。齒磨粉等、
購買より求めて来る。子供人見知りして気むつかし、早く
販る。九時過ぎ寢床。此の夜も甚だ寝苦し。秀夫は、市
議立候補百余名、多忙の為、二時間の居残りを命ぜられ
つつある由。

昭和12年5月14日（金）

曇り勝ち。逓信局より被選書類雛形を送付、一括書類の
提出を促し来る。美濃紙十枚、拾銭にて求め来らしむ。
道子依然快癒するに至らず。巖に第一生命の掛金支払い
を、振替払込みにて遣る。

昭和12年5月15日（土）

昨夜飛行便にて中尾氏より手紙届く。要は道子と一緒に
来たれと云ふにあり。今日返信発送す。久子に簗島局よ
り二十円受取らしむ。昨日澄子久子、渡辺通りの土地に
行き何か野菜を植えたしと出掛けたりしが、秀夫の家
にて鋤を借りに寄り、菜を貰ひ来る。夫れにて夜おひたし
す。本日は久子中津に行くさ、自動車にて伊田に行き、
本田氏方に一泊すと云ふ。余は市役所に至り、代書人に
色々手続きし貰ひ、五十四銭とらる。若松市役所より、
膳本を取寄せることとす。夜秀夫遊びに来たり。十一時
近く販る。曇り。

昭和12年5月16日（日）

朝晴れ。山下信義氏、松居様方に見えることになり居り、
余午後三時に松居氏を訪ふことに話しあり。然るに、余

の中津行きにて参加出来ぬことになりしを以て、葉書にて断り、午前二時四十分発にて小倉に、同駅二十五分程待合わせ、一時五十四分発にて中津に向かふ。此日晴れ、熱し。巖釣魚に行き不在、夕方酒気を帯びて販る。夜奥平正治氏を訪ふ。90銭土産物持参す。身元引受人を依頼せしも、資格を有せず。親戚を物色し明朝挨拶する約にて十時販る。巖迎えに来たりたる由。十一時過ぎたるまで咄して寝床。

昭和12年5月17日（月）

五時前目覚め、五時起床。体操を初む。和博を連れ菓子五十銭求め販る。朝食後悦子を姥車に、和博を連れ海岸三百間に散策。一時間を要す。巖集金に出発。十時和博が余り菓子を強請するを以て、連れ出して散歩、途中姥車内に睡る。家の前にて集配手に逢ふ。午後一時二十五分発にて出発の予定にて、十一時過ぎ辞去す。愛子牛乳を余に薦む。乃ち之を飲み、昨巖が捕り来たりし魚を焼きて土産に貰ふて出発。途中、奥平氏に寄る。氏不在、妻女に其の旨通告して駅に至る。大分待つ。斯くて、午後四時五十分頃帰宅。六時松原氏来宅。道子に艦隊入港の際、来て呉れとのことなりし。其の他敷地の図面のこと、是れは家を建築する関係なり。普請に対する余よりの立損金のこと等。然るに余は午後六時、モラロジー講習会に出席することとなり居り、お膳が運ばれたるを中座し、午後七時出席。新会員に列席、3, 70銭会費納入。広池千九郎氏著書五冊を得たり。既に開会一時間を過ぐ。五六百名の聴講者あり。老幼男女、区々にして飯塚其の他、相当遠隔地より来福の士多し。十時過ぎ閉会。伊勢大神に遙拝して退散。十一時を過ぎて到着。

昭和12年5月18日（火）

朝五時過ぎ、道子等起床。六時前出発。余は中尾氏に拾円を贈る。道子も菓子を届けたらし。久子は十六日余より先に出発。中津行を目的にバスにて飯塚後藤寺經由、今谷さん、本田さんを訪問の由なるが、余の居る間は中津に見えざりし。さて朝駅まで送り、乗車券は山陽線經由名古屋行とし7、80、外に急行券65、及び下関以東100、計九円四拾五銭支払ふ。電報を同時発信せんとしたるも、八時より引受け、其れ以前は時間外料徴収さるるを以て、一旦引返し、正午頃再び行き頼信す。天王寺駅下車のことに変更す。午後五時夕食うどん。五時半出発、六時に五分前到着。前日通り講義あり、講師は二名なり。十時半帰宅、水浴。中尾さんより道子無事到着の電報あり。天王寺駅午後七時五十七分発、到着八時二十五分。

昭和12年5月19日（水）

曇り、陽光時々射す。風あり、凌ぎ良し。中尾氏宛、返信発送す。橋本君呼子遠足の際の小包、松浦漬到着。十七日附けのもの、礼状発送す。午後五時三十五分、例により新柳町まで徒歩。夫れより区電車にて五丁目下車、同六時会場に至る。会員数少なし。此日は広池氏の講演。マイクロホンを設置しありたるも、調度不整、役に立たざりき。十時終了。十時半着。水浴の後、十一時寢床。蚊多く睡れず。一時半起き出て蚊帳を取り出し、吊手を造りて漸く人心地つけるも、興奮の余り、余は焦る程一層睡れず当惑せり。

昭和12年5月20日（木）

昨夜蒸暑かりしも道理、遂に朝より降雨の様。午後より驟雨、時にあり。久子一時飯る。バスにて来たりたる由、途中パン、土産に求め来る。昨余講習会に出発後、桑原氏来宅。光友一部とまこと誌一部持参さる。久子は伊田及び後藤寺の友達の許に各一泊し、余の飯りし後に到着せし由。バスにて来たりたる為、余が一時を過ぐる到着列車を注意したるも居らぬは当然と思ひたり。夜に至りても時々驟雨あり。久子風呂に行き、其の頃、余蚊帳を吊り九時過ぎ寢床。

昭和12年5月21日（金）

朝雨。十時頃より多少空明るくなり、東北の風。久子齒科医かかり行く。昨欧州訪問大飛行、神風號は台湾に到着、本日大阪に機翼を休め、羽田飛行場に到着の由。大阪東京共、歓迎準備に熱狂的態度を示しあり。午後二時頃より霽れ、碧空を見る。

昭和12年5月22日（土）

快晴、時々曇り。澄子久子午前中外出。活動、観に行けるらし。本日午後七時半より城西橋停留所北「まことの郷」に於いて、一燈園の立山不退氏来福に付き、光友会と「さとの」集ひ合併開催のことになれる旨、通知あり。柳原舜祐師が、まこと誌を編纂して居らるる如し。六時半髯を剃り、午後七時発。新柳町より乗車、鳥飼まで。その次城西停留所下車。北の角にあり。集まる者、青年男女中、老年区々四十名。静座御勤め（大祓詞）。立山氏桑原氏来られ、立山氏の体験談あり。柳原氏の御話にて十時閉会。然るに松居様、電車中にて急に発病、

一同大いに驚き途中下車。桑原氏タクシーを連れ来たり、之に乗せ申して飯宅。息子、商業在学中の方が附添い居りたり。其の為め帰宅遅れ、十一時半に至る。寢床十二時。明朝十時二十八分、立山氏京都に飯らるる由。

昭和12年5月23日（日）

朝より降雨。九時四十五分出発、駅に至る。山崎氏、宮原氏其の他同士数名あり。入場券を求めて立山氏を送り、其の足にて、松居氏の病状を訪ふ。既に起きて居らる。皆安堵し辞去す。雨多少小降りとなる。下駄穿きにて行きたる為、行歩困（くる）しむ。十一時半飯宅。一時歇む、夜に及びて再び降雨。柳原先生よりの「まこと」誌、中尾須藤両氏に贈り、須藤氏宛の手紙を夜、発送せんとしたるに、足駄なく中途戻る。澄子差出し呉る。九時半、此日は蚊帳を吊らず寝む。下にても同様なりし。

昭和12年5月24日（月）

朝降雨。市役所に土地所有申告書提出。鈴木貞江氏を介して戸籍抄本取寄せ。振替払出書、序でに貯金局に持参、局員に提出す。出掛けるに足駄を求めしむ。1,700銭支払う。中尾さんより小包到着。人形の外、余、道、澄、久共、夫々土産あり。行届きたる措置に感喜せり。午後より雨降らず。写真も数葉到着せり。早速返書を認め、余の大判写真を贈呈せり。夜、月皎々。寢室に一杯の月光を浴びて、清浄その物の如く寝るは、勿体なき感を催したり。

昭和12年5月25日（火）

朝の間快晴。十時頃より次第に曇り初む。午後は一般に

曇天、再び降雨を気問（づか）ふ。終日家に引籠もり、昨日より再び引張りを着用す。夜朧月、蚊帳を吊らざりしが、夜半に至り蚊の攻撃に逢ふて、起きて吊る。澄子等風呂に行きたり。九時半寢床。冷氣。

昭和12年5月26日（水）

朝来降雨。松原氏より手紙あり。道子に今月末か来月初め、来佐及び金員借用方申越し。此の朝十一時四十分、一燈園同人岩橋武男氏へレン・ケラー来福に付き、ヒッパリ着用、駅に歓迎方、桑原好男当番より葉書あり。然るに女史は前日下関にて微恙、午後四時五十分到着に変更の旨、新聞の報道に依り、午後四時少し前出発。バス電車を利用、山崎氏宅を訪ふ。十分間計り話す時、桑原氏来訪。一緒に駅に至り入場券を求め、向い側ホームに待つ女史の世話人、某氏先発として来たりしが迎えに出て居らるるに逢ふ。同氏より入場券二十枚を頒与に預かる。入場券は三デパートにて一斉に販売せしも、一日にして売り渴したる盛況にあり。定時列車到着。女史及びトムソン女史、岩崎氏夫妻と共に九大講演場に向かふ。余等は還り、夕食を済ませし計り、道子販宅。柏餅を食ふ。話渴きず。道子は昨梶沼好子氏宅に一泊、主人公と「モラロジー」を説明し呉ると。「モラロジー」入り後、人間も円熟せるやに見ゆとあり。土田蛾九郎氏は布袋局長としあり、同氏に菓子を届けしむ。然るに親切に労り、此日一泊の不可已に至れり。次の日鬼頭宅に、二十四日汽車中、二十五日小倉梶沼氏、而して此日販宅の順序とす。

昭和12年5月27日（木）

昨夜道子等風呂に行き、余寝床。頭痛あり。今朝、定刻起床。昨夜道子の土産、餡餅（あんもち）等多食に嵩られ、腹加減悪し。巖より引受人適當の者なしと云ふを、余の出馬を促し来たる。午後一時より三名、女史の講演会に行き、余留守す。会場は仏教青年会館なり。此日海軍記念日、角力天覧勝負をラジオにて聞く。新横綱双葉山、大関清水川に勝ち、一等賞刀剣を得。東京は降雨、当地は曇天。子供等デパートに廻り、四時頃帰宅。夕飯後、久子連れ秀夫宅に徒歩往復す。百円貯金受領証を依頼す。夜九時半までラジオにて、海軍記念日に因める諸種の催し物を聞く。此日腹痛、中尾氏に手紙書きを中止して上厠。再び水浴す。幸に夫れ丈けにて全快せり。

昭和12年5月28日（金）

朝の間、碧空を見る。九時頃より再び曇天に傾く。十一時四十七分、ヘレン・ケラー女史長崎に向かふ。十一時前十分、徒歩にて駅に至り、直に山崎氏を訪ふ。桑原氏既に居らる。入場券三枚分九拾銭、同氏に支払ひ駅に至る。入場券を求めて入場したり。桑原氏は車内に、岩橋氏を訪はれたり。発車後桑原氏と駅頭に別れ、徒歩帰宅。午後二時秀夫の勤め先、保険局構内郵便局に至る。西公園まで三区、飯りは高等学校前より二区、受取りし金は百円、三時帰る。久子市場に買物に行き、うどんを求め来る。道子家賃拾六円支払ひ、豌豆を貰ひ来る。水道取付方談判する筈なりしも、相手は娘にて柔和に過ぎ、貰い物の関係もあり切り出し兼ねて帰れる由。豆の筋取りして遣る。夜は余留守して皆風呂に行く。九時半寝床。

昭和12年5月29日（土）

朝四時前後降雨。長降りせず暁に至り歇む。十時頃より陽光を拝す。午後快晴。巖より電報あり。午後三時二十五分受信。中津駅発午後三時五分発、午後六時二十五分ハカタツクとあり。五時四十分頃出発、駅に二十五分かかる。姑（しばら）く待つ、然るに到着せず。一旦販らんとせしも、七時五十五分到着の列車まで待つこととし、九軌デパートで人形など見て、再び待合室にて少時待つ。果たして来たる。和博を連れたり。小倉にて迷児をしたりと云ふ。電車及びバスにて来着す。一列車遅れる旨、更に電報せし由なり。粥食にて夕飯を供す。巖単独にて奔走し、一として不結果に終わる。痛烈に非難す。夜八時風呂に案内。十時寢床。階下に休ます。

昭和12年5月30日（日）

快晴、午後より曇る。十時頃より久子を残し玉屋に行き、巖に鮎を餐すと。猶土産に子供の帽子、半ツボン等を求め与ふ。秀夫両児を連れ来る、暫く話して販る。途中巖に遭ふて引返す。昼飯の代わりうどん、子供等まで餐す。是れは道子の計らひなり。秀夫去りて巖途中まで送り、夕食を馳走したらし。和博を寝かして一時間、四時過ぎ目覚む。夕餉を与ひて余の支度中、巖販り来る。四時四十五分発、駅着五時六分。剩す処三分、漸く間に合う。五時九分発車。販りに徒歩にて例の理髪屋に至り、髪を刈り35銭、六時半帰る。天気再び霽れる。一日何もせず逡信局より督促来る。和博少しも落着かず焦躁の感、油断も隙も出来難し。玉屋にては子供の旗を持てる前に立塞がり、突然掠奪し対手を泣かす。皆々困着すと云ふ。巖小倉にて迷子にせしは、責は巖にあるも、是の乱暴者

には、うっかりすると所在を見失うこともありぬべしと同情さる。

昭和12年5月31日（月）

朝より快晴。十時二十二分発急行にて出発。熊本に向かう。途中電車内にて岸田氏に逢ふも、車内混雑の模様につき、デッキ近く立ち、中に入らず。定時発車、熊本には午後0時42分到着。178、65、電車にて八錢。市役所前下車、直に逡信局に至り、人事係を訪ぬ。係長出張、光永氏及び私宅を訪ねたる。次席某氏に面会、次いで監督課長、田村局長（二日に出発とす）に面接。田村氏は名古屋に榮転され、二日出発の由。庶務課長にも挨拶したり。斯くて各課長の好意により帰る。パン粉二袋28を求め、三時五十五分發にて、到着午後七時十八分。南新町を徒歩、柏餅二十錢持参。八時着。夕食を済まし、中尾氏よりの手紙を見る。小包を送りしらし。